

＼それ以来、四月になり新しい教科書が配られる度、私は胸いっぱい真新しい教科書のインクの匂いを吸い込みます。新しい教科書に名前を書くのは少し緊張するけれど、また一つ学年が上がった誇らしさを感じながら一つ一つ丁寧に名前を書いていきます。そして裏表紙の「この教科書は～」の文字を確認します。小学校高学年の頃からふり仮名はついていませんが、この文はいつも変わらずここにあります。これを見ると私は今でも自分が沢山の温かい眼差しに見守られているのだという安心感を覚えます。

今年の四月、私は中学三年生になり義務

教育最後の年になりました。もうすぐ「この教科書は～」の文ともお別れです。学校の授業でも税について学び、教科書だけでなく多くの公共サービスが税によって支えられていることも知っています。税金は一方的に払うものではありません。一人一人が互いを支え合うものだとして理解し、自分も社会を支える一員だという自覚をもつことが大切だと思います。

私は温かい眼差しに見守られていた気持ちを忘れず、これからもしっかりと勉強して、社会を支え合う一員になりたいです。

## （一財）大蔵財務協会理事長賞

### 社会保障のありがたさ

八重瀬町立東風平中学校 三年

眞榮田 唯さん

私は、中学一年生の時に社会保障制度という言葉を知りました。そのきっかけは祖父です。私たち家族は祖父の自宅介護の際、社会保障の一つである介護保険制度を利用しました。祖父の入院生活が二年を過ぎた頃、人口呼吸器も取れ、祖父の意志もあり、家族で相談して自宅介護をすることを決めました。祖父は気管切開と胃ろうをしており、寝たきりの状態で、かなりハードルの高い介護が予想されました。そこで、ケアマネージャー、病院のソーシャルワーカー、祖父の介護の手助けをしてくれるスタッフと話し合い、私たち家族の負担をなるべく軽くできるように、介護保険制度をすすめてくれました。介護保険制度は、他の社会保障とは異なり、お金を支給されるのではなく、介護サービスをいくらか自己負担するだけで受けられるというものです。介護保険を受給するには、要介護認定申請を出さなければならないのですが、祖父はそのうち要介護五で最重度の介護が必要な状態でした。そして、実際に自宅介護が始まると、予想以上に大変でした。気管切開をしているため、数分置きに痰の吸引をしなければならず、二十四時間体制のケアが必要でした。そんな私たちが休むことができるのは、看護師さんが、訪問介護に来てくれた時間でした。／

＼この訪問介護は、介護保険のうちの居宅介護サービス費としてのもので、寝たきりで減多に入浴できない祖父の体を拭いたり、それだけでなく、祖父に優しく声を掛けたり私たちにアドバイスをくれたりと、家族みんなの心のケアをしてくれていた様に思います。

祖父は、私が中学二年生に進級して間もなく亡くなりましたが、その数日前に、私たちは祖父を車イスに乗せて、庭で写真を撮りました。祖父を乗せた車イスは、居宅介護福祉用具購入費として業者から借りたものでした。また、一番印象に残っているのは、祖父は亡くなる二日前、訪問入浴介護で数か月ぶりの入浴をしました。リビングに簡易の浴槽を組み立て、祖父は温かいお湯を体にかけてもらい、とても嬉しそうな表情を浮かべていました。私たち家族だけでは自宅介護をできていなかったと思うし、たくさんの人にサポートしてもらいながら、祖父と一緒に過ごすことができました。

最近税について学習し、年金制度なども社会保障の一つだと分かりました。日本がこれだけ社会保障制度などが充実しているからこそ、私たちは祖父を自宅介護できたのだと思います。今、日本では少子高齢化が進み、社会保障の費用を負担する働き手が少なくなっています。充実した社会保障を日本がこれからも継続できるよう、社会を支えられる大人になりたいです。

